



スパークス・アジア・パシフィック・ファンド・オブ・ファンズ戦略 ~直近の市場動向について~

投資家の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

アジア株式市場は米国におけるサブプライムローン(信用力の低い個人向け住宅ローン)問題の悪化による影響を受けて景気の先行き不透明感などから下落基調にあります。ここ数日は信用収縮懸念が世界的に広がったことから株式市場は下げ幅を拡大しています。

1. 株式市場の動きについて

- ◆ 8月17日のアジア株式市場は続落し、アジア各国の株式市場は月初来では上海総合指数を除き10%前後の下落となっています。
- ◆ 年初来上昇していた株式が信用収縮懸念から大きく売られる展開となりました。アジアの中でもアセアンや天然資源の豊富な国の下げが目立つ展開となっています。

	月初来	年初来		月初来	年初来
MSCI Asia Pacific	--8.90%	+1.15%	シンガポール	-11.67%	+4.85%
TOPIX	-13.23%	-11.94%	マレーシア	-13.66%	+8.69%
韓国	-15.27%	+14.19%	タイ	-14.34%	+11.56%
香港	-12.07%	+2.12%	インドネシア	-18.74%	+5.71%
上海	+4.15%	+74.05%	フィリピン	-17.62%	-3.29%
台湾	-12.89%	+3.41%	インド	-8.79%	+2.57%
オーストラリア	-7.70%	+0.02%			

(データ出所:ブルームバーグ。8月17日現在。MSCI Asia Pacificおよびインドネシアは8月16日現在)。

2. 為替市場の動きについて

米ドルおよび豪ドルの推移



(データ出所:ブルームバーグ。8月17日現在)

- ◆ 8月16日には円は米ドルに対して2006年6月以来の水準まで上昇(円高/ドル安)しました。この円高の背景には、先進国の中で最も低い金利水準にある円で資金を調達し、金利の高い通貨で運用を行うキャリートレードの解消が活発化したことがあります。

■当資料は、情報提供を目的としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社とスパークス・インターナショナル(香港)リミテッドが作成したものであり、勧誘を目的とした販売用資料ではありません。また、証券取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に掲載されている情報は、将来の運用成果、市場動向や運用方針等をお約束するものではなく、その結果を保証するものではありません。■当資料は、その正確性・完全性について弊社が保証するものではありません。また、将来予告なく変更される場合があります。■当資料中に記載されている内容、数値、図表等は当資料作成日現在のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

3. 当戦略の状況について

- ◆ 当戦略はアジア・太平洋地域を投資対象とした複数のヘッジファンドに実質的に投資をすることにより、リスク分散を行う戦略です。
- ◆ 戦略別に見ると、株式ロング・ショートの方が最も高くなっています(2007年7月末現在)。
- ◆ 株式ロング・ショート戦略は、株式の買い(ロング)と売り(ショート)を組み合わせた戦略のため、一般的に相場の下げ局面では買い(ロング)のみの戦略よりも下値抵抗力が高いと言えます。
- ◆ 一部のヘッジファンドは、今回の下落局面でレバレッジの比率を大きく引き下げたり、先物をショートするなど機動的に対応を進めています。
- ◆ 弊社では、今回のアジアの株式市場の下落は、アジア経済の実態が大きく変化したことによるものではなく、信用収縮によるリスク回避の動きによる調整と考えています。アジア経済の中・長期的な成長に大きな影響を与えるとは考えておりません。

今後も引き続き、リスク分散を図りつつ、安定した収益の獲得を目指した運用に注力して参る所存ですので、より一層のご愛顧を賜りたく何卒よろしくお願い申し上げます。